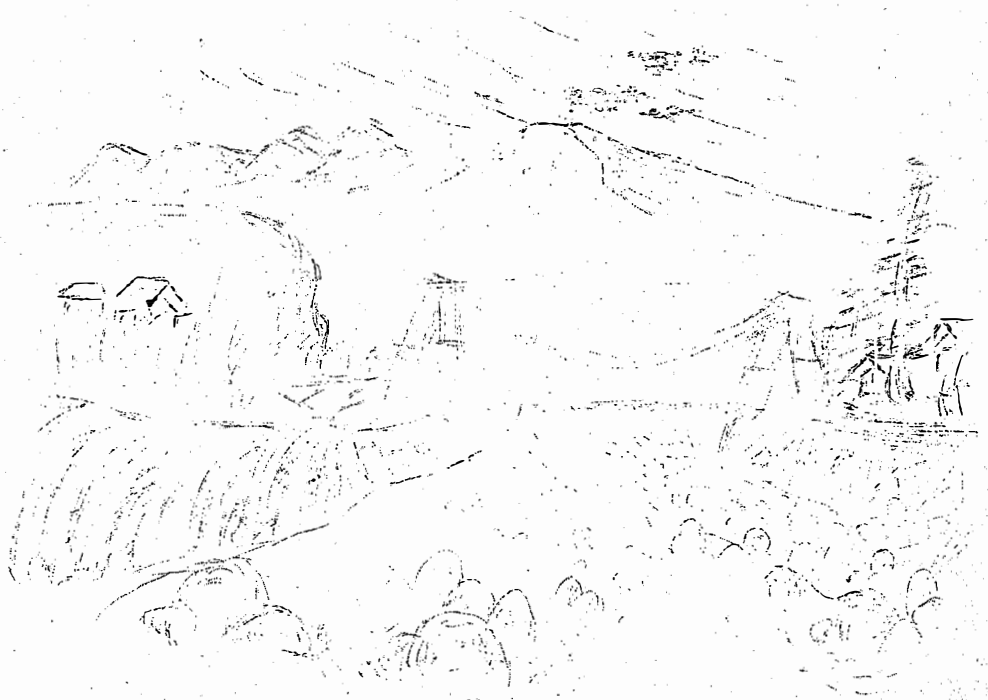


1765 247
S U A C

月報 52

特集 / 連休合宿報告



信州大学山岳会上田(織維)山岳部

音連休合宿報告

1. 我が合宿を顧みて(総括)	C.L. 佐々木史郎	2
2. 計画の概略		3
3. 行動概要		3
4. 係の反省		4
食糧反省	杉本敏宏	
装備反省	真良明	
会計報告	河原洋	

新人合宿の計画

1. 前言	上田山岳部 C.L. 佐々木史郎	5
2. 計画概要		6
3. 各係及び組織面概要		7
4. 連絡先(事故防止策)		8
5. 保護者連絡先 他		9

“お便り紹介”

Kさんより—Summer Tentの思い出— (K子=あるBG)

私の最近1,2年間の山歴 O.G. 石川悦子

「新人」について 新人係 真良明 8

山にひかれて 市野勝正 12

“木村”の退部について 王将 佐々木史郎 12

総会のしらせ

編集後記

卒業報告

五月連休合宿報告

1. 我が合宿を顧みて(総括)

CL 佐々木 史郎

何故我々が鹿島を選んだか。その理由は前号に記した。敢えて附記するなら、実質的効果をねらったこと、松本部員との交流を考えたからであろうか。又、充分な考察を積んでの未知の世界探究はまことに楽しく興味があるものである。(こう言うと、すぐ「危険だ」とさげすまれる連中も。早合宿するな。) かような諸点から合宿地選定としては、先ず「適切であった」と考える。行動内容については、あいにく悪天にうきまよわれ、鎌尾根隊でずいぶん縦直下30m地帯まで行きつづも退却を余儀なくされた。しかし、安全策として、中絶を得ない判断であった。又、雪上訓練も充分とは云えないが、部員の技術修得が早く、とりよりのカンを取り戻しが意外に早く、新人合宿に備える態勢も微弱ながら築けたと思う。なお、訓練の際の「落っちたーん」は習慣的に身につけることにより、事故防止に一役かうものとして、そこに大きな意義を見出した。(そもそもこれは松本の訓練からヒントを得たものか? このような点でも種々の主張している交流の意義の重要性をどうして皆は判りてくれないものか?) 各係については、私がある事情により、全く援護してやれないにもかかわらず、特別の支障をきたすことなく無事、責任をまとうてくれた。これによって、各部員の力量判断及び彼等への信頼感の得られたことは私としては嬉しい限りである。以上の事項にも増して、今合宿最大の成果といえは、我々は異口同音に、5月3日のMeetingを唱えるであろう。このMeetingは当合宿最大の目的でもあったし、天候も、関係上、崩れざるを得なかったにせよ、こういふことは、過去に類をみない、我部の新しい方向を示すものである。その内容の詳細については、紙類の都合上、次号にゆずるとして、その具体的大要を記すにとどめる。さて、問題のそれとは1966年度年間活動方針案のことを意味する。

活動方針案
面天スロカン

1. 学生生活に密着した部活動を行う。
 (授業をサボラナイ、大学祭をやる、つまり、山岳部員である前に我々は学生であるという点である。)
2. 部員の要求を取り入れ、活動を楽しくする。
 (今までの我部は、他のサークルとの兼部を認める必要があったようである。そのため、次々と多くの落任者を出した。真に、とても関係深い。)
3. 部員拡大と他団体(山岳協会、上小労山etc)との交流を許す。
 (責任感と根性ある部員確保(ワンドムンから、スカウトする手もある)と技術訓練場が大きなネライ。)
4. 事故防止対策の強化。
 (万全を期して、スリップ事故から遭難まで、完全防備態勢を築く。何れも、完全策を重視とする。我々の登山思想の根柢はここに在り。)

以上の4項に、最小限の規律(省略)を定めて、今年度の活動方針とする予定だが、これは、我々の過去の経験の中から必然的な発現をみたものといえる。ほ顧みる余裕をここに得たのである。我々は、そういう意味で、今合宿を、1966年、5月、革命合宿”と呼ぶことにした。 —以上—

2. 計画の概略

2.1. 場所 鹿島槍 冷沢周辺

2.2. 期間 1966年 5月2日～5日

2.3. 目的

2.3.1. 雪上技術を系統立て徹底す。

2.3.2. 登攀の實踐

2.3.3. Meetingを重視す。

2.4. 参加人員(名)

岡村、佐々木、杉本、真、河原、森田……計6名。

3. 行程概要

★5月2日 ①～② 上田発 6:06 → 長野発 8:20 → 大町 (10:00～10:30) → 原 (11:05～12:00) → 西保出合 B.C 地蔵 (13:45)

満山の山桜と紫色の片栗の花を車窓(タクシー)より眺めつつ大谷原に着く。お茶をぬかし腹ごしらいをする。大谷原より車の通れる平坦な道を30分ほどと山の斜面を沢ぞりに進む細い路となり、途中、真中辺りから雪が残る。

★5月3日 ③～④

天候がよくないので雪上訓練とし、北保本谷を30分ほどつめ、三の沢との出、傾斜50°位の小さな斜面で、グリセード、キックステップ、トラバース、など練習する。帰りはアイゼンをつけ斜面のトラバースをしながら下る。帰幕後はカセット約4時間におたまり行う。

★5月4日 ⑤～⑥

稜線はガスっていたが山岳気象解説で天気はよくなると放送したので急ぎ、3 party に分れ南嶺集結を約して出発する。

○ガイド隊 (佐々木、河原)

3ノ沢で他の party と分れ、テフリのの上に続く2人の松本 party のトローリ、ガイド尾根、取付にて追いつく。2人は中村、扇野、両氏でここは4人で行動を共にする。本谷より分れ傾斜40°ほどの浅いルンゼだが天候は、いこうに良くなるが視界は20m前後である。かすかに、タルンゼ左側の岩稜に取付けると、間違いと判断し引き返し、再びセをつめるも、予り雪崩をくらひ、あとは“逃か一手”であった。

○東尾根隊 (真、森田)

地 party と分れ、松本 party を追う。この日の新宿、岡村 両氏らとエスコラド
 ツコイと休んで話にふけていううちに、天候、ますます悪化の徴候あるを見て北俣
 出合まで下る。トランシーバーで鎌尾根隊との交信を行いつつ、タレント隊の帰
 りを待つ。13時の交信を最後に鎌隊の下山開始を確認して、全員下る。

○鎌尾根隊 (岡村、杉本)

登下降にさほど困難はなれど、雪がトサ上 10cm 位あり、手固取る。稜線直
 下、30m 地裏まで行くが、この辺がやや急で、登降意欲を失う。タレントも東
 も退却の報に強く心をひかれ、ついに、退却したい意向を伝える。下りは特
 急のような速さで下山す。

★ 5月5日 ○

絶好の快晴であった。3の沢出合までストップ。サイルワーク、アセンワーク、コンテニューアス
 訓練をした後、テントを撤収して帰る。途中、逆先に輝く爺岳がカニヒで
 あった。なお、狩野見て、独標の方に会った。

4. 係の反省

4.1 食糧係

杉本 敏宏

はじめの食料係をやって、そのむかしは身にしみ分った。次回にいいの
 こすことは、一日毎の献立を確実に作り、使うものの個数量を明らかにし
 ておいた方がよいとゆうことである。計画に従わぬと不足したり余りす
 るようになる。肉を買い忘れたことは重大な失敗であったが、やはり肉類は必
 要である。なお、しょう油、漬物(タケノコ、オシロイ)も欲しかたという。カンパンの
 件であるが、どういふものがよいかもっと具体的に出示してもらいたい。
 「たつますい」だけでは分らない。)とうすることもできぬ。注意があれはか
 んで受けろつもりです。

4.2 装備係

真 良明

ビニコンテントは内張はいらなかった。フライシートが現在我々の部には
 なれど、今年中には是非用意したいものだ。合宿中は装備の管理は係
 のみに任せずに全員が気付いたらしてもらいたい。

4.3 会計報告

河原 洋

収入	支出		
600 × 5 + 1000	食糧費	3,112	
= 4,000	装備費	510	
	自転車1台代	100	
	お茶代(狩野見)	100	
	計	3,822	
余り 178 (円)	部費にまわす		

新人
SAC
合同
宿
の
計
画

1. 巻頭言

上田山山部 C.L.

— SAC 合同合宿の実現まで —

佐々木史郎

この新人練成合宿は、はじめ上田・長野の合同合宿として計画のたが、教養部の新人トレーニングに直接関与している松本部切実の、人道的要望に心をうたれ、SAC 統一の新人合宿を決定をみた。時は 5 月 14 日、新人歓迎コンパの日、猶被で言た結果である。時間的問題やとにかく反対などという恐ろげもあつたが幸い、我々、Leader 会の熱意が実り、ここに当合宿運びとなった。組織面からみると完璧とはいえないけれども、これはあくまで新人のための合宿であり、我々も又、以後、起る困分克服できる信念をもって、その準備に当たっている。我々上田は 3 名なり参加部員も減る。しかし、その残り、少ないは問題ではない。京からの参加依頼を敢えて、しりぞけた新人のための、しかも、はじめ

3. 念願の SAC 合同合宿の意義を私にどうして無視できようというのか。色々と言状をかかえての参加であるか。これが、特に、長野との親睦と合併推進の契機は、今の苦しみも、ふいとるという訳である。以下は、ほんの概要にすぎない。AC 合同の計画書の送付を約して、関係各位に、了承承願いたく思う。 (1966. 5. 20.)

2. 計画概要

2.1. 場所

北アルプス 横尾周辺

2.2. 期間

1966 年 5 月 29 日 ~ 6 月 5 日 (但し、上田は 1 日下山予定)

2.3. 目的

- 新人のための雪上技術一般に關する訓練
- 長野との親睦交流を行う。

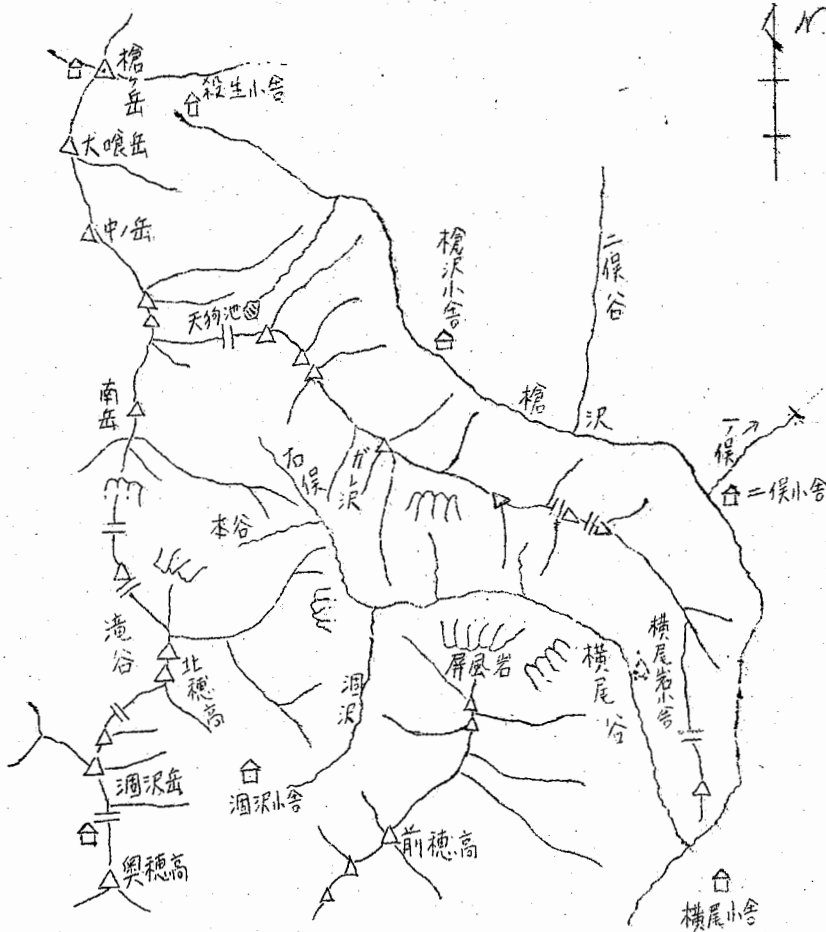
2.4 参加人員構成

- C.L. 佐々木史郎 (3 年)
- 装備・气象 栗 良明 (2 年)
- 食糧・会計 市野 勝正 (3 年、部員 1 年)
- 池内 寛幸 (SAC 新人)

2.5. 行軍力のあらし

入山は徳本峠を越えるが、帰路は自由。新人は雪上訓練、上級線歩きは認めるが、岩壁登攀など、極端な行軍力は取らないうし、又出来な早く立ち、雪上訓練後、応用トレーニングとして、稜線までの歩行、スキップ、クリエーねた、楽しみもあしあつて居る。

2.6. 横尾ヶ根附近略図



3. 各係及この組織面概要

○ leader 構成

C.L: 宇都宮 (SAC 委員長)

S.L: 新谷 (松本伊那) 望月 (長野) and 佐々木 (上田)

各部 C.L. は拒否権をもち運営を合議制にする。

○ 各係分担

食糧: 松本 (Essen: 170円)

装備: 長野 (燃料はマキのみ。予備2日分の石油は各所で)

会計: 長野

記録: 上田、長野 (長野には申し訳ない位である！いつか)

○ 場所決定とそれ以前

長野: 徳本越えて、横尾

松本: 横尾

上田: 鹿島 条件付、横尾

徳本より、横尾へ

(但し、島々よりの交通費は pool 制)

pool 制を要求したのは部の現状からやむを得ないところ

- 期日: 29日~5日 松本・長野とも可能
(上田は29日~1日の予定、部の方針及び実験実習の関係から、残念ながら不可)

- 其他
入山まで

新人の装備、テント、サイル...等は各部装備係が用意する。28日(土)午後4時より全員、松本にてハンティングを行い、終了後、直ちにLeader会を開く。

訓練 etc.

入山は徳本を越える。2年生がシコキの対象(荷物分担例: 新人30kg、2年40kg、3年以上は残り平均は30~25kg位、各C.L.は個人装備のみ)であり、入山のMemberは適当に混じり、テント生活は家族単位で、新人も自由に割りこみ、その部の方針が指導する。朝、早く立ち(29分、3~4時)、約3~4時頃の訓練後、応用テニスコとして稜線まで歩かせる。長野の2年生は新人と同じく、サイルワークも行うとのこと。なお、上田の上級生が31日頃、上ノクを踏むのはかまわない。

4. 連絡先(事故防止対策)

- 登山隊: 横尾小舎 ↔ 上高地豊科警察派出所
- 本部: 信大繊維学部 厚生補導係 尾 上田(2)1216
- SAC本部: 信大本部 厚生補導課 尾 松本(3)4600
- 部長: 内田貞夫(織-機械科、助教授) 上田市上川原柳町1762 尾 上田(2)4194
- 残留部員: 岡村紀雄(長野市相本東34592; 佐納研、化工4) 杉本敏宏(修仁寮 上田(2)5073)
- OB代表: 井出邦徳 大阪府寝屋川市仁和寺高分子寮

5. 保護者、連絡先及び科、学年、年齢、血液型 etc.

佐々木史郎: 南佐久郡八千穂村大字畑923 佐々木一

農3 21才 B型

真 良明: 長野市大臣島松岡7552 真 順作

織工2 20才 B型

市 野勝正: 岐阜県美濃市広園町 市野時夫

機3 22才 ? (B型)

池内寛幸: 軽井沢町新道1178 池内鉄太郎

化1 19才 A型

「新人」について

新人係 奥 良 明

信州大学全体の長年の懸案であった教養の統合が成され本年度4月より1年生は松本で一般教養を受けることになり我々上田山岳部としては上田に新人が居ないため日頃の新人の訓練が我々の手で日うまく出さなくなりました。この問題は昨年中からSACの中でいろいろと討議なされておりましたが結局新人の日頃のトレーニングは松本在任の部員(松本部員だけにならうか…)が面倒を見てくれることになりました。又、合宿へは各々の所属部の合宿へ参加することになりました。しかし、新人問題は今後、大いに考えなければならぬ問題であります。現在、我々の部へは新人(1年)が1名入部いたしました。現在松本において松本部員指導のもとでトレーニングを行っております。新人係としても松本へ出向いたり手紙などで色々新人の指導に当たりたいと考えております。

(追加えり)

○松本部員が松本の方針で指導する。(上田 長野はそれに任せる)

○SACとして新人に区別をつけて指導する。

○“松本部会”なるものを設け、これは“1年会”も兼ねる。

(毎週金 午後8時ヨリ 松本部室ニテ)

上田・長野も連絡事項が生じれば出向くが、事前にヒカキで通達す。

○岩トレ等は松本にも頼む訳があるが上田が岩壁の訓練したい欲求にかられた時、新人は、いずれに参加することも可能である。

○新人に事故発生の際置並びに責任はSACであり、当面のleaderであり、各部leaderでもある。(SACの遭難事故一切の責任はつづるところ、学長にからんでゆくと同様)

※大体、以上のようなすが、疑問の莫や改善案等、ありましたら、第一報下さい。
なお、これは、小宮氏の希望により取り上げました。(坂本 記)



爺岳(後立山)を望む

お便り 紹介

Kさんより — Summer Tentの思い出 — (K子……あるB.G.)

拝啓

本格的な冬の訪れの季節となりました。信州大学山岳部のテントへ一泊した思い出……それは今年の夏の思い出です。お覚えずらっしゃるでしょうか。あの時は大変お世話様になりました。感謝致しております。あれから、4ヶ月もの月日が立ちました。もっと早く手紙を出すべきものが今頃になり失礼致しました。憧れの上高地へ、私達にとって思い出深いものでした。冬の上高地も素晴らしい事と思います。また行きたくなりました。長野県ってとても良い所ですね。そんな所に住んでいる人も良い人はかりようです。また機会があれば、山岳部の人達のお世話になるかも知れません……そんな日があったら、どんなに素晴らしい事でしょう……いや、ありません、さつと……今年の冬も登山なさるのでしょうか？ 自然って素晴らしいですね。東京にいますとたんだんと自然より離れてしまうそうです。住む場所を「サマ」せいはいいかようです。空気もまたないし、澄んだ「青空」など、遠い大昔のような気がしてあります。淋しい事ですね……そんな時きつと思い出しますね。上高地の素晴らしい山々を……あの時、うった、思い出の写真……併送り致します。アルバムが片すけへでも贈り頂ければ幸いです。お身体も大切に勉強に励んで下さい。山岳部で7月30日から31日頃、テントにおりました方々によろしく。(11月15日記)

敬具

Kより

信大山岳部の皆様へ

(注) この手紙はS.40.11.17. 3枚の写真と共に我部に到着したものです。その全文を掲載致しました。なお、K子とは偽名であります。

私の最近 1.2年間の山歴

O.G.石川悦子

1964

- | | | |
|----------------|------------------|-----------------|
| 7月 埴岳～大岳(奥の岳単) | 8月 大妻谷(奥の岳単) | 9月 南面集中(谷川・沢・金) |
| 5月 海沢 (〃 単) | 日原川本流(〃〃) | 三ノ峠(千段の谷2-2回) |
| 西谷山 (〃 個) | 滝郷沢(丹沢・登稜会) | 一ノ倉一沢(谷川・金) |
| 真名井沢 (〃 単) | 8月 地獄谷集中(赤谷・山岳会) | 10月 石太郎冬山偵察(谷川) |
| 川苔本谷 (〃 単) | オニカ沢(途中沢・谷川・金) | 11月 箱子南壁(94外山) |
| 雲井溪谷(丹沢・個) | 小川谷廊下(丹沢・O.B) | サカサ(94トリ山・金) |
| 12月 上高地のB合宿 | 5月 上高地のB合宿 | 谷川岳よき山(谷川・金) |

12月 冬山荷上げ(谷川会)
西黒尾根(谷川会)

1965

1月 石太郎冬山合宿(谷川会)
ゴウリ沢(三ツ峠会)

沖源 岩トレ(丹沢会)
三ツ峠 屏風岩(一般登山会)

2月 ゴウリ沢(三ツ峠会)
スキー(菅平会)
フソウ岩(奥多摩会)

3月 天祖山(〃会)

毛子ゴシ沢(丹沢会)
沖源一郎(〃)
沖箱根屋沢(朝丹沢会)

4月 谷川雪上訓練(谷川会)

5月 淵沢合宿(会)
沖源(丹沢会)

6月 沖源全冷沢モソ(丹沢会)
表銀〜トレト(北沢会)

7月 上の杈現(地獄谷集會)

8月 鳥の〜仙丈(南沢会)
セトノ沢左俣(丹沢会)

9月 鷹の巣A沢(谷川南西集會)
北岳ハートルズ(3尾根会)

セトノ沢右俣(丹沢会)

10月 逆川(奥多摩単)

夕かとり山、カイル祭(会)

己の戸谷(奥多摩単)

11月 新葎沢(丹沢単)

吊前山(奥多摩会)

表尾根ホウカ(丹沢会)

冬山荷上げ(也山会)

12月 白毛沢(谷川会)

12月 中ゴ一尾根(谷川会)
茂 富岳(〃)

1966

1月 北岳合宿(南沢会)

2月 スキー(菅平会)

四阿山(〃単)

棒入折山(奥多摩会)

3月 丹沢主稜(丹沢会)

小金沢連嶺(大ホウ会)

ツルネ稜(北岳会)

4月 鍋割山(丹沢会)

三ツ峠(一般登山会)

5月 淵沢合宿(会)

松本、コルテニト設営で
スノーシューに参りまして
谷川通過で清谷は果たして
なりました。

★note: 会…会山行 個…個人山行 単…単独行

先月出しましたOB会アンケートの解答より、発表させて頂きました。

事業報告

○5月9日(月)

第5回部会をPM.5:00より第30号にて開き、5月連休合宿反省会を2時間40分にわたって討議しました。この結果はほぼ総括の中に反映しております。

○5月11日(水)

上小労山例会がUSK事務所にて開かれ、佐々木、杉本、河原、市野が出席しました。サの子が沢山いきました。

○5月14日(土)

山岳部新人歓迎コンパが松本文理学部の柔道場を借りて行われました。松本、長野の上級部員がほとんど出席したのに対し、上田からは佐々木のみ、都合で「仕方なかった訳ですが」1年生には申し訳なかったと思っております。お密様として、栗駒信大ヒュッテの岡崎さん、OBとしては長野監督の百瀬さんらが参加下さいました。このあと、百瀬監督を囲んで、SAC Leader会を設け、当面の問題であるSAC合同新人合宿及び上田・長野合併の問題などについて話し合いました。

○ 5月15日(日)

岩鼻トレーニング 参加者: 岡村、真、市野

但し、河原はこの日柔道の学部対抗試合あるため、13日、真と行った。

佐々木…… 家庭の事情(父病の悪化)にて帰宅。
(森田、吉川氏と雑談後、帰る。)

木村…… 完全なるサボリ。

杉本…… 私的都合上不参加。

○ 5月17日(火)

緊急部会…… SAC合同合宿について我部の方針を確認。

上小労山…… 組織部会、山行部会があり、これにも出席(佐々木、杉本)

○ 5月18日(水)

SAC Leader会が長野部室にて午後7時半頃から12時半まで行われ、新人合宿問題を討議しました。「とにかく反対」と「とにかく恐るべき反論とあったようですがとにかく、この合宿は実現する予定です。上田からは佐々木出席。

○ 5月19日(木)

18日の決定をみり、徹夜で厚生補導提出のつき根案を作り、最近、ウルサクたり、数日前、学部長室まで呼び出され、忠告を受けた。悪い前例が私の上には、尾をひき、下級生には残すまい。

○ 5月22日(日)

長野県労山連盟結成大会…… 森田(O.B)出席

祝電「ロウカンレンメイノケンセイヨシユクス」シタウエダサンカクワ。”

寮の合同(短大)バスハイクあり雨天の中を志賀高原へ。(佐々木、杉本、市)

○ 5月23日(月)

上小労山…… 事業部会及び山行部会。(佐々木、市野出席)

① 6月4、5日

尾瀬ハイキング…… USK主催におんぶする。

② 6月19日

長野労連、美ヶ原集中ハイキング

この日は長野県学生連合のバスハイクがあったため、美ヶ原は4,000近くの人で海となる。

③ 6月下旬(26日頃)

祝行日帰り山行、CG、独鈷山(?)

④ 7月2、3日

県労連の登山教室、大嶺山で。

以上①～④が上小労山の当面の事業及び山行です。

この日、サボリ、サボリ、サボリがありました。フワリとしたムードがでますね。

山にひかれて

(1年次) 柳野 野 勝 正

私は学生生活4年目に於て、この3月、山岳部に入部を認められました。これよりワンダフルなケル部員として2年間、大いに部を、その活動を愛してやみませんでした。それで山岳部に入部したのは、自分がワンケル活動に魅力を感じたとか、部活動に行きずまりを感じたからではありません。只、今まで自分が飛び込んでいた自然界の中から、特に山という得体の知れないものを選び出し、それに強くひかれる様になつてしまつたからだと思います。山の魅力、又、その生活の楽しさ、それはそれだけでも大きな喜びがあります。その喜びが大なるが故に、今までの自分には山はそれだけ、自分の生活からは離れて別に存在しているか様でした。それは自分が山行になつて行く時、気が付く。それで満足して居たのであるが、去年1年間、学校という特別な環境から遠のいた生活を送り、初めて自分の山行きが解せなくなつてしまいました。それが逆に山岳部に入部した直接的な動機となつたのかも知れません。もと山と深く接することによつて、又、實際、山と本格的に取り組んで行く運命と一語にやることによつて、山が本当に自分のものになり、つまり山行が完全に自分の生活の一部になり、つらくなること、ということになります。その裏において、目下、一部員として活動する中に、我が上田山岳部、私に一方性を与えてくれました。又、この「生活と密着した登山」という部の考え方は、これからの山岳界の方向づけとつらると確信しております。

木村の退部について

主持 佐々木 史 郎

5月の合宿で今年度の活動方針案のおよそのアウトラインはひかれた。その下山直後、軽く考へていた。父、病の重大なる(肝硬変)3月5日以來入院中。6日の夕方、1時、キトリ状態におち入り、を知り、私の活動範囲も明らかに限定されてきたかに見える。農家である私がこの多忙な団植え時期に、老いた母と妹に畑を任せ、SUACへの義理人情で新人合宿に向かふとして居るのである。しかるに忙しい昨今、田舎の各部員、下宿まで赴いて合宿参加の再確認(23日、宇都宮からの依頼あり)をしなければならぬという、ことに悲しむべき現実が今だにあつたのである。すでに予備計画書は厚生補導に提出してある。0.6諸兄を、いくらとんぐり頭とせよ、これ位は実感としてやりてくれよう。

私も實際、木村の下宿へ入るや驚嘆した。部屋全体がHAM(無線)の交信室であり、工作室となつて居たからである。今までは上田でけりろ人、日本でも矢張り、部員が少い位、彼のHAM(無線)での活躍はめざましい。ソ連からの通信(ほとんど外国とのこと)も向うから「キムラ」で呼ばれて居るのだ。そうた。

私は、直感で、これは、とちがが/本にしほること、木村のために、そして我部の将来

のために手残された唯一の手段は「ワソリカ」と考えた。さ、40分余にわたって
とて退部するにせよ我々の期待に応じ、最後の合宿に出てくれることも強要し
た（何故かと云えば、新人合宿には参加すると云っておいたからだ。）しかし不幸
なことに、私自身の苦しい立場を説く能力は、彼の生れたからの環境からして
生いて来なかったとして、当然のことたつたかも知れない。

しかし、彼は山にも登りたくて仕方がないのだ。

彼の彼の退部を垂ふ「そのかみちうハス」がない。部員の中に、私をウラムよう
な気配がうすうす漂っている。Leaderとして、これ程若い経験は2度とない
ように祈る。だが彼との話合の上で、最善の道を我等2人は考えたのだ。
ある。これは私と木村だけ知る事実である。

では、何故、私は、彼は、この道を選ばねばならなかったか？

部の規律を保持せんがための、即ち活動範囲の制約を受く私が、塔大
上田山岳部(SUAC)を継承してゆかんがための、最小限のルートを保障して
おかわねばならなかったからである。

編集後記

月日の経つのは早いもので、アッという間に今月も終わろうとしています。
OBから月報をもっと早くできたら、合宿2週間前までに頼むとの
要望が来ています。残念ながら、今のところ不可能でしょう。今回も
云々誤りはありませんか。「事業報告」「SAC合同合宿案の出したのが14日」
及び「私の家庭事情」等から推測され、お詫し下さい。

又、企画おとこ、これから徐々に考えてゆくとモリです。しかし、そ
で一番困るのは原稿の手不足です。その点よくご理解の上、何
でも結構です。併協力、持下さる様、重ねてお願ひ致します。

徹夜のカリキリは、癒えました。でも、カンパリマス！

自分の企画で作る月報、これまた楽しからずや

（佐々木記）

上田山岳部総会のおしらせ

期日：6月12日(日)

時間：午前10時30分より12:30分まで
(この後引き続き懇親会を行う予定)

場所：交渉中

- 。おわび：少々準備が遅れている気配で申し訳ありませんが、総会には支障なきことをお約束致します。なお、詳細には遅くとも6月3日までに市通知するつもりです。
- 。おねがい：総会出席予定の皆さん(永島・石川・小室・吉川の各位)はあらかじめO.Bとの託会(連絡会)をもち、お望み下さる様お願い致します。
特に、予算面について。

SUAC 第52号

昭和41年5月
発行

編集人 佐々木史郎 河原 洋

発行所 信州大学山岳会
(発行人)

上田山岳部

